

第九十二回 楽々俳句会(ちば歩)

令和五年二月九日(木) 冬晴

吟行：千葉神社 十時集合 投句三句

句会場：活動センター 十三時集合

五句選

久武 1 4目を閉じて聞くや手水の春の音
久武 1 春寒の追ひかけて来る足の裏
久武 1 1如月の杜に着地の力石
武 2 立春や明るき色の服を着て
久武 1 2日溜りの春を揺らしぬ鯉の群れ
久武 1 2受験絵馬声なき声が迫り来る
久武 2 老いてなほ手抜ききの出来ぬ寒ざらえ

寒復習(かんざらえ)寒中の早朝又は夜更けに平素よりも
一段と激しい練習を行う事を云う
今日子 静代 恵美子 洋子 恵美子 ミチ子 粹歩

久武 2 冬日さす部屋いつぱいの重さかな
久武 2 海風に煙り流して目指し焼く
久武 1 地軸なる房の大地の長大根
久武 4 2朱の色の塀に融け込む春日かな
久武 1 2神の池鯉動きけり水温む
久武 1 2紅白の香りひとつに宮の梅
久武 1 1受験絵馬クラス一同署名せり
久武 1 冬澄みて神の見守り金の鯉
久武 4 春光や人に慣たる鳩の群れ
久武 2 早春の合格祈願絵馬が鳴る
久武 2 水温む鯉の尾鰭のゆるやかに
久武 2 紅白の梅綻びて九曜紋
久武 1 舞ちゃんの絵馬にふふむる木の葉かな
久武 1 日の当たるところを歩みて春を待つ
久武 1 街路樹の眠りしままや春浅し
久武 1 罫りは老舗菓子屋のショウケース
久武 1 朱鮮か妙見本宮冬枯て

今日子 静代 恵美子 武彦 粹歩 粹歩 ミチ子 酒泉 今日子 園子 信雄 久登 成彦 武彦 成彦 久登 園子 久登 成彦 信雄 成彦 信雄 雄

冬枯や妙見宮の朱鮮やか

1 日溜りで猫と句を詠む日和かな 静代

日溜りのベンチの猫と俳句詠む

1 青き空鳥居見上ぐる梅白し 宣子

1 咲き疲れてぐつたりしてる黄水仙 弘子

咲き疲れぐつたりしたる黄水仙

1 連れ合ひと云う佳き言葉菜菜飯 園子

1 白梅の香染み入る力石 久登

1 紅梅の色のはじめを新勝寺 洋子

1 春ぬくし水脈ひく鳥の長き影 宣子

谷の子を見やる狛犬梅の花 現場を見ていないと理解できない

梅の香や谷の子見やる獅子の像

千葉神社の扉をたたく木の芽風 あふるる

社殿より光あふれる春の風

豆撒きや鬼現るる家の主

寒さに耐え神社の脇の梅のふふむ

寒明し早朝の月尊星殿 早朝の寒明けの月尊星殿

納豆や手つ取り早いあさげかな

妙見の隅喇叭水仙風に揺れ 微風来て喇叭推薦揺るるかな

水仙の土手延々と大河たり 水仙の大河の右手埋めつくす

実朝忌公孫樹雨降る鎌倉宮 鎌倉宮の公孫樹の雨や実朝忌

神くじ引く何だかんだと受験の子

神殿の床を清めて春祭 何が壊れたのか？

春浅き風に飛ばされ壊れけり

草ぼけや賽銭弾むぼけ防止

詰め放題ある蜜柑参百円

梅が香の絵馬に託して妙見宮

参加者

成子・洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・園子

宣子 信雄・利太郎・粹歩・酒泉・武彦・久登

欠席・榮子 豊隆

予定

三月九日 (木) 県庁玄関 十時集合 十三時 活動センター
四月十三日 (木) 千葉公園 九時集合 十時 活動センター

五月十一日（木）

十時 活動センター